

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第6回和文会誌分科会 開催日: 8月8日. 出席者: 荒木主査, 他 16 名.

1. 論文審査報告

21件の報告があり, 掲載可15件, 修正依頼6件.

2. 鉄と鋼第55年第13号(11月号)論文集

17件の論文を選定した.

3. 技術資料類執筆依頼について

アンケートよりの技術講座テーマにつき検討した.

4. 抄録について

アンケート意見に基づき抄録のあり方を検討し, 従来どおり継続することになった. 内容は報知的なものとし積極的な方法をとることになった.

第7回欧文会誌分科会 開催日: 8月27日. 出席者: 橋口主査, 他 16 名.

1. 14件の論文について審査報告がなされた.

2. 4件の論文について執筆を勧誘することになった.

3. 投稿規程中に Letter to the Editor の説明を追加することが決まった.

第5回講演大会分科会(和文会誌分科会合同)

開催日: 8月13日. 出席者: 草川主査, 他 34 名.

第78回講演大会のプログラム編成ならびに座長選定を行なった.

一般講演: 305 件, 討論: 21件

共同研究会

鉄鋼分析部会

化学分析分科会 開催日: 7月29日. 出席者: 新見主査, 他 41 名.

会議事項

1. 鉄鋼化学分析

(1) Mn の溝定法・吸光光度法の共同実験結果報告

(2) S-ISO 法の共同実験を26カ所で行なう. 詳細は次回決定.

(3) Si, Ni, Cu, Ti, Mg の分析実験報告

1. 原子吸光分析

(1) 原子吸光分析法通則JIS案にしたがつて, 各元素についてJISに入れることにした.

(2) 鉄鉱石の Ni, Cr, V, Bi について共同実験を行なうことになった.

(3) 鉄鋼石化学分析-JIS 改定の意見を集約した. SiO_2 , TiO_2 , Mn, As, Biについて共同実験を行なうことになった.

標準化委員会

ISO鉄鋼部会

第8回WG4分科会 開催日: 8月15日. 出席者: 鈴木主査, 他 18 名.

今回は5月19日~22日デュッセルドルフで開催された. 第11回 ISO/TC17/WG4 の国際会議の報告会を行なった. 当国際会議には宇野(大同), 吉武, 大久保(日冶) 徳梅, 平野(神鋼)の5氏が出席され審議の結果次のとおり決まったとの報告があつた.

(1) 次回 TC 17 総会に答申するもの (WG4での審議完了)

(a) 火炎焼入鋼および高周波焼入鋼

(b) 熱間成形用ばね鋼

(c) S含有量を調整したはだ焼合金鋼

(d) ステンレス鋼

(2) TC 17 で取扱い方法を確認するもの

(a) 焼なまし状態および冷間引抜状態の炭素鋼

(b) Super Alloy

(3) 次回 WG4 において継続審議するもの

(a) 耐熱鋼

(b) 耐クリープ鋼

(c) パルプ鋼

(d) 析出硬化型ステンレス鋼

(e) ボールおよびローラ軸受鋼

(4) 次回 WG4 でとりあげる New proposal

(a) 冷間圧造用および冷間押出用鋼

(b) フックおよびチェーン用鋼 (TC 111/WG4 の要求があれば)

第6回WG12分科会 開催日: 8月6日. 出席者: 三佐尾主査, 他 9 名.

絞り用熱延鋼板, 絞り用冷延鋼板, 構造用熱延鋼板の3つの draft につき, 前回検討を保留した「伸び値」について各社実績を考慮のうえ, 日本の修正案を作成した.

第7回線材分科会 開催日: 8月19日. 出席者: 水内主査, 他 17 名.

(1) 線材関係 JIS (軟鋼線材, 硬鋼線材, ピアノ線材) 改正案の審議

硬鋼線材の carbon range 区分に関する意見調整 carbon range 区分については, 種々の案が出されていたが

(イ) 現行どおり C 0.10% range と C 0.05% の2本立とする.

(ロ) C 0.05% range とする.

(ハ) C 0.05% に上側のみ 0.02% 広げ 0.07% とする.

の3案に集約されたが1つに絞ることができず次回さらに検討することにした.

そのほか, P, S, 標準寸法, 寸法公差などについて意見をまとめ, 改正案を作ることができた.

第6回原子力用鋼材分科会 開催日: 8月8日. 出席者: 長谷川主査, 他 20 名.

1. 合金管関係の審議

熱交用 Ni-Cr-Fe 合金管の熱処理温度は客先指定により実施する内容を含めることとなつた.

次回熱交用合金管の整理案を幹事より提出することとなつた.

2. 原子力用ステンレス鋼原案の報告.

ステンレス協会より報告があつた.

3. 原子力用鋳鍛鋼 JIS 原案の報告

鋳鍛鋼会より報告があつた.

4. 原子力用鋼材の体系調査

WG をつくり, 具体的調査にとりかかることとなつた.

第8回 H 型鋼ぐい鋼管ぐい JIS 原案分科会

開催日: 8月4日. 出席者: 大崎主査, 他 25 名.

1. H型鋼ぐい JIS 原案

作成を完了した.

2. 鋼管ぐい JIS 原案の標準寸法に関する審議

審議の結果, 鋼管ぐいの標準外径寸法はインチ寸法をベースとし, ミリラウンド寸法を一部併用する方向で解決が図られることになり, ミリラウンド寸法 5006, 00, 700 で次回結論を出すこととなつた.

第5回 JIS 低温圧力容器用鋼板規格原案分科会

開催日: 8月6日. 出席者: 金沢主査, 他 21 名.

衝撃値規定法に関する WES の規準にもとづきメーカー検討原案の審議を行なつた.

(1) Ni 鋼は時期尚早で今回は普通鋼だけとする.

(2) 熱処理条件は解説に入れる.

など修正し次回分科会 (10月) まで幹事会社にて審議経過報告書案を作製することになつた.

第3回 JIS みがき棒鋼用鋼材原案分科会

開催日: 8月20日. 出席者: 今泉主査, 他 24 名.

前回までの打合せ事項に従い作成した「みがき棒鋼用一般鋼材(案)」について審議した結果, ほぼ原案どおり了承された.

なお, 化学成分を保証する 1~4 種について, 機械試験値がどの位の値になるかを解説に記すことになつた.

今回で会議は終了することとし, 部の保留事項は書面審議で検討することとした.

第6回 JIS みがき棒鋼原案分科会

開催日: 8月20日. 出席者: 中村主査, 他 22 名.

前回保留になつた事項を逐次審議した.

1. 適用範囲

炭素鋼 (SS と SC) とする

2. 一般鋼材より製造したみがき棒鋼は SS30B-D と SS41B-D の 2 種類とする.

3. 上記の 2 種の引張り強さおよびロックウェルかたさの値について検討し, ほぼ原案どおり承認された.

4. 標準寸法を一部変更・追加した.

5. 熱処理などをおこなつた時の表示方法について検討し, 案のとおり承認された.

会議は今回で終了し, 最終原案を書面審議で検討することになつた.

第15回試験高炉委員会

開催日: 8月5日. 出席者: 辻畑委員長, 他 11 名.

試験溶鉱炉第20次操業現地検討会

(1) 基礎実験結果の中間報告

第20次操業に先立ち, 常温, 中温, 高温モデルによる装入物の流動ならびに Flooding 現象と微圧変動との関連を調査したが, その試験の中間報告がなされた. 高速カメラによりモデル内の流動状態を撮影し同時に微圧変動波形の記録をとり, 微圧変動要因の解析を行なつた結果, その要因が層内に発生する気泡とその消滅に起因することがわかつたことが報告された.

(2) 第20次操業経過報告

第20次操業の火入れから, 現在までの操業経過および今後の予定について報告があり, 得られた操業データにつき検討し, 今後の方針を確認した. 午後より委員, 幹事全員試験高炉の操業状況を見学し, また炉頂爆発口に取付けた覗き穴より炉を観察, 黒い装入物の間隙から時間の経過とともに赤熱した装入物が沸騰する現象 (流動現象) を見る事ができた.

鉄鋼基礎共同研究会

第6回強度と靱性部会

開催日: 8月20日. 出席者: 荒木部会長, 他 8 名.

1. 東北大根本助教授が Fe-Cu 合金における Cu の析出と塑性変形について発表した. 0.6~6 at%Cu について析出状態と機械的性質を調べ, クラスター (G.P. ソーン) の存在する状態が最も脆く, 強度が著しく上昇することを見出した. また降伏応力の温度依存性, 伸びの遷移温度, 破壊応力も時効状態によつて変化する.

2. 住金の邦武委員が調質鋼に関する実験結果 (主として S の影響) を報告した. S が多く含まれるほど靱性は悪化し, これには MnS の介在物が関係している.

本年申請した文部省総合研究 (B) 補助金が認められたので, 本年度後半はこれを基に運営することになつた.